矢田部

矢田部の十二町層　　－冷たい海の時代－

　矢田部付近には、朝日山や十二町、布施、飯久保、堀田にかけて分布する十二町層があります。十二町層は石灰質砂岩とシルト質砂岩の互層をなしています。この層は大桑相当層で、オウナガイやツキガイモドキ、サイシュウキリガイダマシ、オオキラガイ、ホクリクホタテ（トウキョウホタテ）、エゾホタテなど、寒い海に生息する巻き貝や二枚貝の他、有孔虫化石が産出します。 堆積した時代は新生代第三紀末～第四紀初頭（約１００万年前）とわりと新しいのですが、地層内に多く含まれる貝殻から溶け出したカルシウム分が周りの砂を固めたため、固くしまっています。

　矢田部地区内にある萩原工業資材置き場脇の露頭では、板状に固まった石灰質砂岩の層を観察できます。また、農業用のため池をはさんだ反対側には、写真の露頭ともとはつながっていた地層を観察できます。地層の広がりを感じ取ることのできる場所です。

ため池側の露頭

萩原工業資材置き場側の露頭

露頭内に見られるノジュール

板状の石灰質砂岩とクロスラミナ

矢田部から上久津呂への道路沿い

右の露頭内に見られるホタテ貝の化石